

市長年頭記者会見 概要

■日時：平成31年1月15日（火） 午後2時00分から午後2時30分まで

■場所：市庁舎5階第4会議室

■相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、共同通信社、ジェイコム湘南、タウンニュース社

■市側出席者：桐ヶ谷市長、柏村副市長、福井経営企画部長、田戸総務部長、須藤福祉部長

■陪席者：米山企画課担当課長、仁科広聴広報係長、広聴広報係 蛭間主事

■配布資料

逗子市プレスリリース「平成31年逗子市議会第1回臨時会の招集について」

■内容：下記のとおり

【桐ヶ谷市長】

○市長年頭所感について

- ◆ 選挙から1か月だが、就任からは今日で11日目である。市の全責任を負うという立場は大変重い、一生懸命重責を果たせるよう頑張っているところである。年末年始に多くのイベントがあり出席させていただいた。市民の皆さんは、あたかも私が手品師か魔法使いのように財政危機をすぐに解決してくれるものだと期待されているようだが、決してそのようなことはなく、大変厳しい財政をしっかりと直視しながら進めているところである。「現場第一主義」で、まずは逐一、現場を見てから判断していく。
- ◆ 市役所の裏に商店街が管理している駐輪場がある。商店街の方では、人手不足のため管理ができないので返上したいという話があったが、利用状況を見ながら市民サービスに支障のないように活用していくのが第一である。利用状況を調べて、単純に閉鎖するというのではなく、活用方法を考えるよう所管に指示したところ。
- ◆ 昨年12月25日の登庁以来、部長会議、部課長会議で、また就任記者会見でも述べたが、Jリーグの川渕チェアマンの話。「できない理由はいらない。どうしたらできるか考えてくれ」この一点でお願いしている。川渕チェアマンの話は、当時はまだまだサッカーが人気の高いスポーツではなく、1,000人ぐらいしか観客が集まっていなかったが、3万人が収容できるスタジアムをつくれとか、下部組織をつくれ、そして地域名でチーム名をつくれ、こういった様々な難題を川渕チェアマンはぶつけた。その当時とすると到底できない理由が先立つわけだが、どうしたらできるか、この一点で考えてくれと。民間から見ると、我々はそういうことを常日頃やってきたと思うが、行政という組織の中では、どうしても安全とか従来の慣習とかが非常に強い傾向がある。そこを、できない理由は後回し。どうしたらできるかで改善、改革を図ろうと、こういったことでやってきた。これからもこういう考えで進めさせていただきたいと思っている。

○今年一年の展望

- ◆ 今年内外共に大きな出来事が予定されている年である。これに災害でも加わろうものならば、目まぐるしい一年になると思う。そういう大きい節目の年で、逗子市においても着実に財政改革を進めながら、市民の暮らしに少しでも改善が目に見えるような形で進めさせてもらいたいと思っている。
- ◆ 年頭に各部局に、予算は厳しい中ではあるが、改善できるところは速やかに改善していくようにと指示した。例えば、教育の面では、学習支援員の不足から教室の落ち着きがなかなか取り戻せていないところがあるが、大きな予算の変更なしに、少しでも教育の中身が充実していくよう工夫をするようにと言っている。教育委員会からもいいアイデアが出てきている。こういった改善を、まずは速やかに進めていきたいと考えている。
- ◆ 選挙期間中、数多く寄せられた図書館の問題等は、時間延長、様々含めて速やかに改善が図れるように準備をしているところである。
- ◆ 中高生のディベート大会も、逗子の一つの大きな目玉の事業であったが、今年度は中止させていただいた。来年は形を変えて、ぜひ進めていってほしいとお願いして、その方向で調整を図っているところ。ディベートは、日本人が一番不得意とするところ。欧米では当たり前のように小さい頃から身に付けていく手法だが、日本人は慣れていない。少しでも中高生のうちに、いろいろな経験をしてもらいたいという思いから、お金や労力をあまりかけずに、何かできる方法を考え、一旦中断したことを立ち止まりのポイントとして、改めて進めてもらえればと考えている。
- ◆ 市内には2,000戸を超える空き家があるが、これに対しても、宅建業界とも連携を取りながら、活用方法を見出していきたい。この空き家の対策が、それなりに功を奏してくると、他のまちでも空き家対策には頭を痛めているところだと思うので、これが若者呼び込む一つのきっかけになってくるのではないかと期待もしている。
- ◆ 予算の制約は大変あるが、その中でいかに上手にメリハリをつけていくのか。市民の側から見ると、少しでも明るい兆しが感じていただけるような、そういうものを目指して取り組んでいきたいと考えている。

○2019年度の予算編成の状況について

- ◆ 厳しい財政状況に変わりはない。いっぺんに大掛かりに急展開するということはない。限られた予算の中ではあるが、うまく活かされた使い方等を考えながら進めていければと考えている。
- ◆ まずは財政再建をする、企業誘致をすると申し上げてきたが、この企業誘致プロジェクトも準備会が立ち上がり、今週第1回目の準備会を開き、順次それを拡大していきたい。企業の誘致、そして税收の増には時間がかかると思うが、何よりもスピードを上げて取り組んでいく覚悟で今後も臨んでいきたい。

○平成31年逗子市議会第1回臨時会の招集について

- ◆ 本臨時会へは3件の議案を提案する。

◆ 議案第1号 専決処分の承認について

昨年の第3回定例会で、麻しん風しん混合ワクチンの接種者の増に伴う補正予算の議決をいただいたところだが、8月下旬から首都圏を中心に風しんが流行する兆しが確認され、接種者が急増した。そのため、再度の補正予算が必要となり、予算措置に緊急を要したことから、154万2,000円を増額する平成30年度逗子市一般会計補正予算第8号を昨年11月28日に専決処分した件について、承認を求めるもの。

◆ 議案第2号 専決処分の承認について

市の厳しい財政状況を鑑み、財政対策の取組として、市長等の給料月額について減額措置を講じてきたところだが、前市長の任期満了に伴い、効力が失われた。そこで、改めて給料月額の減額措置をするため、逗子市常勤特別職職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する必要がある、緊急を要したため、昨年12月25日に専決処分したことから、承認を求めるもの。なお、市長の減額率を100分の50とするが、副市長及び教育長の削減率については、従前と変更はしないこととする。

◆ 議案第3号 平成30年度逗子市一般会計補正予算（第9号）について

高齢者センターの浴場再開に伴う給湯設備更新工事等に要する経費として、1,364万6,000円を増額するもの。なお、本予算については、年度内に工事が完成する見込みがないため、翌年度に繰り越しして使用できるよう繰越明許費の設定をする。

○所信表明について

- ◆ 今回の臨時会では、私の今後4年間の市政運営に対する所信を申し上げる。市政運営に対する基本姿勢や目指すべき逗子市のゴールイメージ、ゴール達成のための方針、重点目標などについて表明したいと考えている。詳細については、本日は控えさせていただく。

【記者】 企業誘致プロジェクトについて、準備会のメンバーは、どういった方々なのか。

【桐ヶ谷市長】 ほとんどが市内の方。準備会から大勢ということだと混乱を来すと考え、当初は5名ほどでスタートさせていただく。例えば、その中で専門分野をいくつかに分けていくということになれば、それによって拡大していく。

【記者】 市内の企業幹部の経験者がメンバーといった感じか。

【桐ヶ谷市長】 ほとんど違う。委員長には山科さんをお願いしたが、まだ準備会なので今後検討していく。3月の議会までには、何らかの方向性が出せるようにしていきたいと考えている。答えが出るのは時間がかかるので、相当先だと思う。今考えているのは、ターゲットは東京方面になるので、東京方面につながりがあった方、もしくは今もある方、そういった方々が中心になるかと思う。

【記者】どのくらいの頻度で集まるとかというのは。

【桐ケ谷市長】これから検討する。

【記者】議案第2号で市長の減額率を50/100としたことについて、市長として改めてどのような気持ちかをお聞かせいただきたい。

【桐ケ谷市長】不退転の覚悟である。

【記者】というと。

【桐ケ谷市長】身をもって示す、というしかない。

【記者】身をもって示す、というのは財政のことか。

【桐ケ谷市長】前にもお話したが、入りと出をどう計るかという問題。「入り」の方はどういうふうに今後、企業の誘致を進めていくかということ。一方、「出」の方は、きちんと精査しなくてはいけないと考えている。それは職員の給与等を含めた様々なものも含まれる。

【記者】人件費をカットして、スリムにしていくということか。

【桐ケ谷市長】それも両方ある。費用もあるし、人数もある。トータルで人件費というのは予算の中のある部分を占めている。この方法はいろいろあると思う。単純に一律に下げるということではなくて、業務の見直しを含めながら、そこはどういうふうに全体をスリムにもっていけるか。前から言っているが、これは今の状況だけではなく、今後の人口減少を考えると、いかに身の丈に合った中で行政サービスが行われるようにもっていけるかというのが勝負だと思う。それが逗子の場合はよりいち早く、その時期が訪れたと考えている。

【記者】市長給与は、いくらからいくらになるのか。

【田戸総務部長】市長の給料月額については、条例上91万円という金額だが、地域手当10%（91,000円）を加算した上で50%の減額となるため、50万500円となる。

【記者】50%カットした市長は今までいたことがあるのか。

【田戸総務部長】逗子市では初めてだと思う。

【記者】高齢者センターの浴場再開について、これは当初から再開予定だったのか。

【桐ケ谷市長】当初から再開予定であったが、再開時期を早めたいということ。当初は10月再開予定だったが、現段階では7月の頭から再開ができるように準備を進めている。逗子市内では、あづま湯さんが営業できていないので、公衆浴場がない状況。高齢者の方々は、そこを楽しみにしている。高齢者の方々が健康を維持して、外出していただき、寝たきりにならないようにしようと、こういう考えが一番強い。お風呂があるから外出しようという気になると、健康増進につながるのではないかと考えて、早く再開させることにした。

【記者】1,364万6,000円は、もともと来年度予算に入っていたものを前倒しにして、繰越明許費にしたということか。

【須藤福祉部長】財源がいくつかあり、一つは特定防衛施設周辺整備基金繰入金に追加交付があったため、今回これに充てた。もう一つが、ふるさと基金の繰入金。今までは生きがい推進事業として、あづま湯さんなどに交付していたものが、あづま湯さんが途中で営業できなくなったため、その減額できる部分をこちらに充て、財源調整を行った。また、繰越金があったことから、それを充て、合計で1,364万6,000円という財源を確保した。

【記者】要は、本来10月再開であれば、新年度の予算でやろうとしていたということか。

【須藤福祉部長】そういうことである。ただし、新年度で予定していたのは、整備するといっても、給湯器などの最低限の設備の金額で進めようとしていたが、防衛の交付金が出たため、周辺に関わるものは、この際一緒に整備するということが金額が増額となった。当初は700～750万ぐらいの予定であった。

【記者】選挙の前の報道各社のインタビューの際には、企業誘致に関しては候補がいくつかあるということをおっしゃっていたが、実際にやってみると時間がかかるというのが現状の認識か。

【桐ケ谷市長】あの時の候補はまだ生きている。あれは、本店移転をしていただくということを考えていた。本店移転をしていただくには、大きな会社は非常に難しい条件があるが、ホールディングカンパニーのような資産管理会社、そういったところをまず引っ張ってくるという話がいくつかあり、それはまだ生きている。順次進めていく。

【記者】やってみたら、なかなか難しいというよりは、順調に進んでいるという感じでよいか。

【桐ケ谷市長】そうである。これからも私一人で動けるということではない。いかに市民の方々がこういう危機感を共有して、何とか引っ張ってこようよと、こういう周りの力をいかに活用で

きるかというふうを考えている。独断専行で一人歩きするよりも、周りの方々のお力をお借りしたい。一生懸命に下から扇いで、持ち上げていくような、そんな仕掛けで動いていきたい。

【記者】 所信表明が2月の議会ではなく、1月22日の臨時会でやられるということでしょうか。

【桐ケ谷市長】 そのとおり。

【米山企画課担当課長】 議会の日程については、本日告示され、22日に招集される。詳しくは明日議会運営委員会が開かれ、そこで正式に日程が決まる。通常であれば、22日に所信表明ということになる。

【桐ケ谷市長】 お願いがある。逗子の記事を拾い上げていただいて、新聞紙面にたくさん出るようにしていただきたい。まち全体がもっとアピールできることを、それは商店街も含めいろいろなところが話題として出していかななくてはならないが、動いているということを醸し出していきたいと考えている。もしもイベントがあるときには、小さくてもいいので各社さんが持ち上げていただいて、逗子は変わりつつあるぞと、こういうメッセージにご協力いただければと思う。